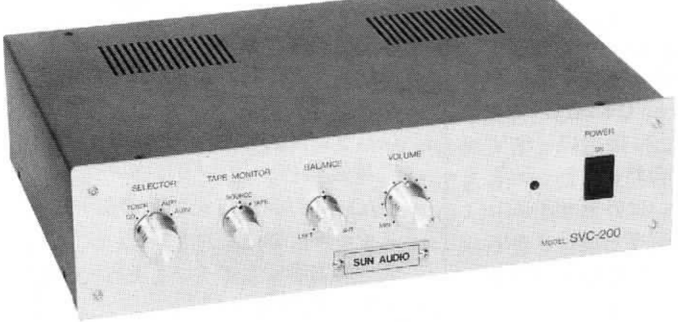
サン・オーディオ SVC-200 管球式コントロールアンプ

¥59,800(完成品¥98,000)

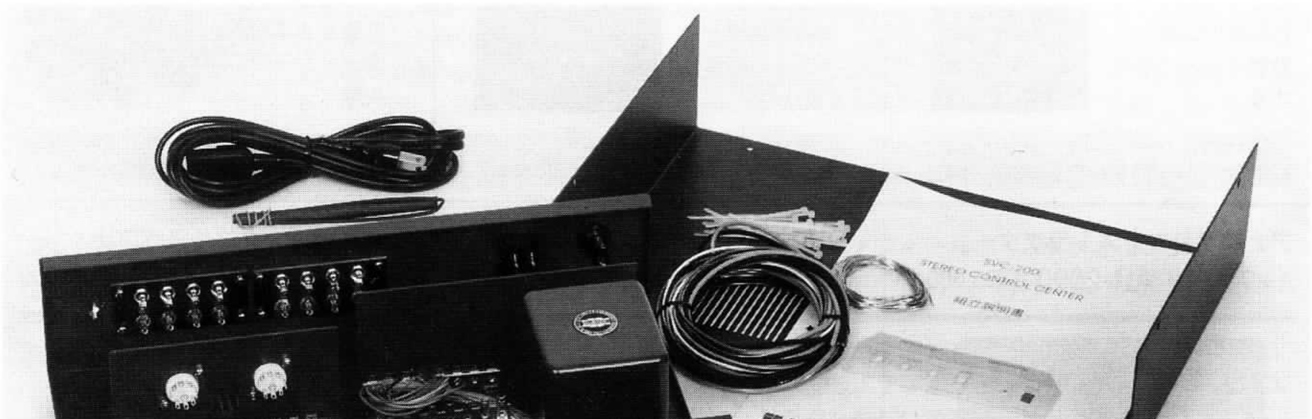


●主な仕様
使用真空管：ECC82/12AU7(2)
入力：ライン(4)，テープモニター(1)
出力：プリアウト(2)，テープREC(1)
ゲイン：22dB
周波数特性：10Hz～300kHz(±1.5dB)
寸法・重量：364W×100H×280Dmm・7kg
●問い合わせ・資料請求先
(株)サン・オーディオ MJ5係
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-23-9 大和ビル3F
TEL 03-5296-0271
ホームページ http://www2.big.or.jp./~ sunaudio/

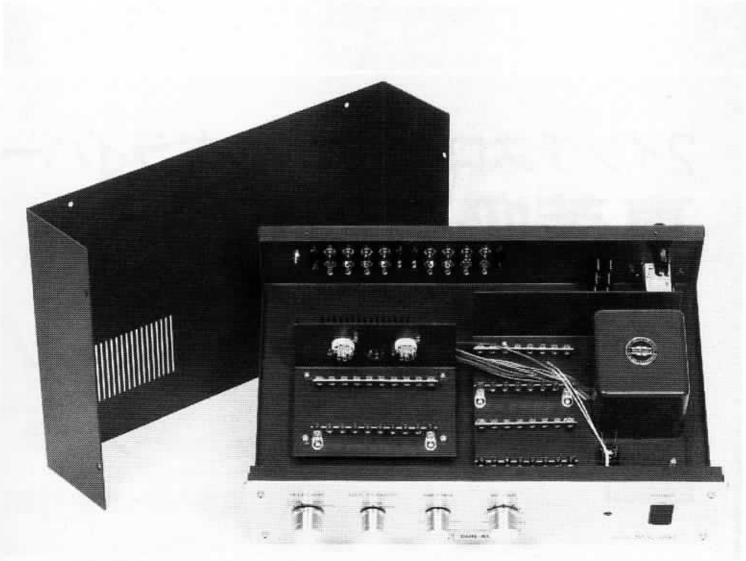
本誌の広告ページでもおなじみのサン・オーディオから，新製品のラインコントロールアンプが発表された．タムラのトランスと真空管の組み合わせによるアンプキットと完成品を発売している同社は，メッカ秋葉原に店舗を移してすでに3年余りを経過しているが，地の利を得てかオーディオマニアの格好の溜まり場となっているという．

本キットは，いわゆるプリアンプのうちLPレコード用のイコライザー部を取り去り，フラットアンプ部と各種のセレクター機能を装備したものと考えればよい．ケースの構造はコの字型を組み合わせたシンプルなものであるが，材料として1.6mm厚の鉄板を使用して十分な強度を持ち，アルミフロントパネルを採用してデザイン的にも美しい仕上がりを見せている．内部はサブシャシーを使用して各ブロックを構成しているうえ，とくに回路部分の配線にもプリント基板などは使用していないので，腕に覚えのあるユーザーであれば好みの回路に変更して作ることも簡単である．

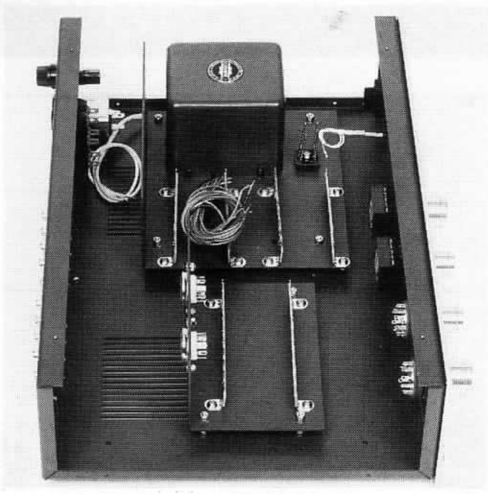
フラットアンプ部は双3極管**ECC82/12AU7**を左右チャンネルに1本ずつ使用している．1段目を通常の無帰還増幅回路とし，次段のカソードフォロ



キットに含まれる全部品．ケースには機構部品とツマミ，入出力端子，サブシャシー，ラグ板，電源トランスなどが取り付けられており，自作の場合の配線スタート状態となっている．CR類はすべて同じ値ごと小袋に入り，抵抗の袋には値が記入されている



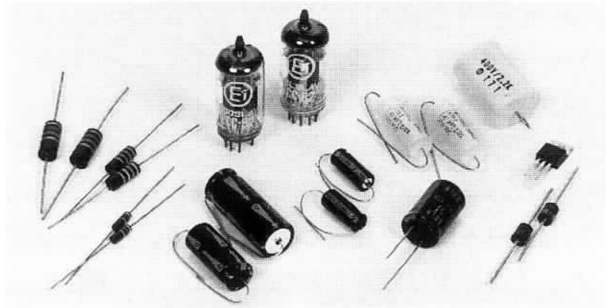
1.6mm厚の鉄板をコの字型に折り曲げ加工したケース．同社キットに共通の艶消しライトグレー塗装仕上げで，フロントには明るいシャンペンゴールドのアルミパネルが付く



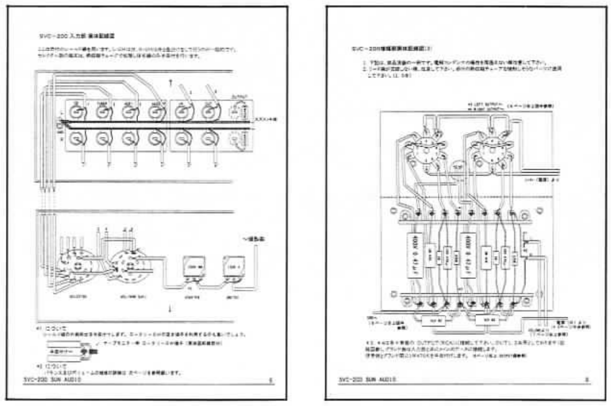
ケース内部には2枚のL型鉄板サブシャシーがあり，その上に増幅部と電源部を手配線で実装する．ラグ板を追加して電源トランスの不使用のリード線を仮配線しておくと，後の改造時に便利．VRはアルプス製の角型オーディオ用が付属



使い勝手よく整理された背面パネル．AC入力コネクターはノイズフィルター付きのIECタイプ



真空管は旧ユーゴのEi製ECC82が付属．信号系に理研電具のRMA抵抗，カップリングにASCのX363フィルムコンといった人気のオーディオ用部品を使用．ケミコンはエルナーと日本ケミコン



A4版，全10ページ構成の組み立てマニュアルは，手順ごとにイラストによる実体配線図6点を掲載

ワー部とは直結として送り出すシンプルな回路．これにレベルコントロール，バランスコントロール，そして入力端子を4回路備えている．また，テープの録音再生端子を装備しているが，これはテープデッキ用以外にも，録再可能なMDやCD-Rなどの機器を接続して便利に使用できるだろう．

B電源はダイオード整流後にトランジスターのリップルフィルターを通しており，またヒーター回路も直流点火として高いSN比を確保している．さらにACのアウトレットはスイッチ連動2口と非連動1口を備えており，コントロールアンプとしての機能も十分である．

電源トランスには同社の上位機種のものを流用しているので，B電圧タップと予備のヒーター用巻線2組を備え，電流容量にも余裕があって，イコライザー回路程度であれば組み込むことも不可能ではない．反面，リード線タイプなので，使用しない巻き線のリードを処理するのに注意が必要になる．

キットそのものの作りは手馴れたもので，さすが作りやすく完成度も非常に高い．そしてこれをサポートするマニュアルも充実している．仕様のとおりに作るのであれば，マニュアルの実体配線図が大いに役立つはずだ．実体図はブロックごとに分けられていてそれぞれ詳細に描かれている．

使用パーツには定評あるオーディオ用を吟味して採用しているので問題はないが，入力端子の数，切り換えスイッチなどへの配線などが煩雑で，この部分はかなり手強いキットといえる．それさえ覚悟していれば，機能的にも価格的にも，また発展性の面でもお買い得なキットだといえよう．　(藤本伸一)